



1、受験本番を迎えて

3学期がスタートし、いよいよ受験本番の時期を迎えようとしています。3年生は、冬休みを利用して最後の仕上げの学習を行い、1月7・8日の2日間で大学入学共通テスト直前演習も実施しました。共通テストまで残り9日となりましたが、体調管理に努めながら、自信を持って本番の試験に臨んで欲しいと思います。少し気が早いかもしれません、共通テスト前後の確認と、進路だより第15号でも紹介した併願校の中で、特に「滑り止め」大学について再度確認をしたいと思います。

(1) 2026年度共通テスト前後の流れ（私大・一般選抜を除く）

	国公立大	私立共テ利用	私立（個別）共テ併用
~1/16（金）		出願その①（前出願）	
1/17（土）・18（日）	共通テスト		
1/19（月）	自己採点 → 共通テストトリサーチ提出		
1/21（水）	コンパス（ベネ駿）・バンザイ（河合塾）システム稼働 → 成績データ		
1/24（土）・25（日）	共通テスト（追試）		
1月下旬～2月上旬	前・中・後期日程 → 同時に出願	出願その②（後出願）	出願 (締切日の確認)
2月中旬	独自日程		独自入試+発表
2月下旬	2/25～前期入試		
3月～	前期発表 中・後期入試	出願その③	

【国公立大】については、共通テスト受験後の翌日に自己採点（とても重要）を行います。自己採点の方法については、試験終了後に各予備校から解答や配点が公表されますので、それらを参考にしながら行います。注意をしなければならないのは、翌日（2日目）に試験を控えている時に、1日目終了後に自己採点をすることは極力避けるべきです。気持ちをしっかり切り替えて、2日目の試験に臨むことをおススメします。自己採点の終了後、自己採点の結果と判定結果を知りたい大学（学部・学科）を入力し、各予備校に送信します。そうすると、コンパス・バンザイシステムにより志望校の（A～E）判定結果や志望校における順位などが確認でき、出願先を決定する際の参考とします。ただ、コンパスでは「B」・バンザイでは「D」といった具合に判定が異なる場合と、多くの受験生が閲覧・参考としているため、良い判定が出たとしても油断は禁物です。

【私立共テ利用】とは、共通テストの得点だけで合否が決まる入試となり、共通テスト前の「出願その①（前出願）」を出願締切日としている大学が多いです。そして、共通テスト後の「出願その②（後出願）」でも出願可能な大学もあり、自己採点や判定を見た後に出願できるため、無駄な出願を回避できるというメリットがあります。ただ、合格ボーダーは高くなる傾向にあるため、出願が困難になることも予想されます。また、2月までの入試で合格することが出来なかった場合には、3月以降の「出願その③」に【共テ利用】で受験できる大学もあります。

【私立（個別）共テ併用】とは、3教科入試であればその中の何教科を共通テストの結果で受験することができます。例えば、（青山学院や立教大など）共通テスト後に出願を行い、2月に入ってから各大学で行われる独自入試の結果をふまえて合否が決まります。

(2) 2026年度入試の予測

新課程2年目となる2026年度大学入学共通テストの難易度や問題傾向などが、各予備校などから発表されております。あくまでも予測とその対処方法ですので、参考にしていただければ幸いです。

① 今年の共通テストは難化する可能性が高い → 平均点が下がる

※ 国公立大志望者が、志望を下げる可能性も高い

受験生において、「メンタル」をいかにコントロールするかが重要な力ギとなります。テストを受けて問題が簡単であれば気持ちに余裕ができ、次の試験に良い状態で臨むことができます。しかし、問題が難しくて出来なかった場合には、気持ちに余裕を持つことが出来ず焦ってしまい、次の試験に悪い影響を与えてしまう恐れがあります。そこで、「今年のテストは、去年に比べて難しくなる可能性が高い」ということを認識しておけば、難しくて出来なかった時でも「周りの人も出来ていないんだ」と気持ちを落ち着かせ、次の試験に良い状態で臨めるはずです。

② 共通テストの結果が、入試全体の結果ではない（←共通テストの難化を受けて）

国公立大を目指している受験生にとって、共通テストは目標としていた試験だと思います。しかし、共通テストで思うような得点がとれなかっただことで、共テ後に勉強をしなくなってしまい、私立大の一般選抜や国公立の前期日程で思うような得点・結果が得られないことがあります。

国公立大は、共通テストの結果を見て出願ができるため、得点が取れなかっただ場合には第一志望から出願先を下げ、自分の得点で合格出来る大学に出願して最終的に合格すれば、その大学受験は成功といえます。逆に、共通テストの結果がすごく良かった時に、安心してしまって国公立二次試験まであまり勉強をせず、第一志望の国公立大が不合格となれば、その大学受験は失敗ともいえます。大切なことは、共通テストの結果に一喜一憂しすぎず、共通テスト後も気持ちを切らさずに勉強を継続することが大切です。

(3) 「滑り止め」大学のメリット

※参考

- ① 精神安定剤 → 逆の場合もありうる（全力で合格を勝ち取る）
- ② 第一志望の受ける前の練習となる → 緊張の緩和
- ③ 浪人前に学力を正確に把握できる
→ 本命校しか受けていないと、浪人したら自分の学力の状況が分からない
- ④ 浪人したくなくなった時の保険
→ 浪人するつもりだったのに「やっぱり嫌だ」と心変わりすることも…

(4) 「滑り止め」大学の選び方・受け方 → 「滑り止まる」を第一に

※参考

- ① 模試の結果で、偏差値5～10低い大学を選ぶ → 第一志望校を基準に選ばない
- ② 2校（回）以上受験する → 滑り止めの大学の受験日に、体調不良で受験できないことも…
- ③ もっとも受かりやすい受験方式で受験 → 最も定員が多い方式、共テ利用の有効活用も
- ④ 第一志望の大学と同じ科目で受験できる → 学習している科目で受験（効率的）
- ⑤ 偏差値ではなく、やりたいことを重視で選ぶ → 自己肯定感を持つために
- ⑥ （保護者）子どもが受けたくない大学は、受けさせない → 受ける気にさせるためには…

※ 上記についても、あくまでも参考です。ただ、すべての条件に該当しなくても、「滑り止め」の大學生を検討する際の材料としてご活用ください。